

科目名	演劇史 3							年度	2025
英語科目名	History of Drama and Theatre							学期	前期
学科・学年	演劇スタッフ科 1 年次	必／選	必	時間数	15	単位数	1	種別※	講義
担当教員	宮下明日香		教員の実務経験		有	実務経験の職種		演劇制作	
【科目の目的】 毎回資料を配布し、劇作家、作品の解説を行う その後、その題材に即した映像を鑑賞し理解する。学術的に演劇を理解することにより、現場で必要とされる実践力へと結びつける									
【科目の概要】 日本の演劇がどのように成立し、現代にまで導かれているかを考察する 学術的に演劇を理解することにより、現場で必要とされる実践力へと結びつける									
【到達目標】 神話の時代から、江戸・明治時代までの日本の演劇史を身につける 歌舞伎から新劇への移り変わりを学ぶことにより、現代の日本演劇の根底を理解する									
【授業の注意点】 授業内で扱う作品を事前に読んでおくことが望ましい 授業中の私語や受講態度には厳しく対応する 理由のない遅刻・欠席は認めない 授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1				
	優れている	よい	ふつう	あと少し	要努力				
到達目標 A	古典から現代劇までの仕組みを正しく理解できる		演劇の仕事をする分には問題ない程度、仕組みを理解している		理解がおぼつかない				
到達目標 B	演技、演出、脚本がいかに演劇を構成しているか正しく理解できている		基本的な用語は理解できる		何が言いたいのかわからない				
到達目標 C	演劇を鑑賞し、その意図するところ、歴史的な位置づけを理解できる		演劇を鑑賞し、おおまかな位置づけは理解できる		何が言いたいのかわからない				
到達目標 D									
到達目標 E									
【教科書】									

毎回授業にて資料配布を行う							
【参考資料】							
毎回授業にて資料配布を行う							
【成績の評価方法・評価基準】							
試験 80% 筆記試験により評価。 成果発表 10% ノート提出、授業内発表により評価。 平常点 10% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する							
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。							
科目名		演劇史 3				年度	2025
英語表記		History of Drama and Theatre				学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	1年次の振り返り						
2	日本芸能の始まり						
3	日本芸能の始まり②						
4	宮廷芸能から庶民芸能						
5	能楽						
6	能楽②						
7	歌舞伎の成立						
8	歌舞伎『妹背山 婦女庭訓』						
9	歌舞伎「義太夫 狂言三大名作」						
10	歌舞伎「義太夫 狂言三大名作」②						
11	歌舞伎「義太夫 狂言三大名作」③						
12	歌舞伎改良運動						

13	新劇						
14	新劇②						
15	まとめ						
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他							
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった							
備考 等							